

日頃から本校の進路指導にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。前任者の異動に伴い、今年度進路部長の職を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

● **昨春卒業生の受験結果（平成30年度入試）**

昨春は大学入試センター試験で当初目指していた得点をとることができなかった生徒が多く、厳しい結果となりました。また、経済事情を考慮して私立大学への出願を絞り込んだ生徒も少なからずおりました。合格者内訳は、国公立大学48名、私立大学190名、短期大学2名、専修・専門学校17名、就職2名です。詳しくは矢板東高校ホームページをご覧ください。

● **平成30年度行事報告**



①学年別保護者進路説明会（3年 5/9 2年 5/18 1年 6/8 10/6）

3年では昨春の入試傾向や私立大学の定員厳格化の影響について、2年では実際の入試問題を解いてもらい（学習院大学の漢字の読み書きと慶應義塾大学の日本史）、現在進行している大学入学者選抜改革の途中経過と大学入学までにかかる費用の話をいたしました。1年でも入試問題を解いてもらい（早稲田大学の漢字問題と明治大学の日本史）、大学入学共通テストのe-Portfolio について話をいたしました。e-Portfolio とは、高校での学びや課外活動の記録・振り返りをデジタルデータに残すための仕組みです。今年度の高校1年生が新テストを最初に受験することになるので、保護者の皆様の関心は非常に高いです。



②東北大学オープンキャンパス見学（8/1 高校2年生）

これまで経験したことなかった猛暑の昨夏、当初の予定より引率者を1人増員して行ってまいりました。この日の仙台の最高気温は37.3℃でした。生徒たちは各自興味のある分野の模擬講義を聴講したり、研究室を訪問して学生に質問したりして少し早い大学生気分を味わっておりました。東北大学のオープンキャンパスはこの日と前日の7/31の2日間実施され、延べ約68000人が参加しました。



③キャリア形成支援進路講演会（10/11 講師 倉部史記 氏）

倉部先生は、「進路づくりの講師、高大共創コーディネーター」という肩書きで高等教育改革の支援をされている方です。全国各地から講演依頼が非常に多く（学校によっては何度も依頼しているところもあるようです）、今年度本校での講演のためにこの日を空けておいていただきました。「15年後の社会を生き抜くための進路づくり」というタイトルで、現代社会のトレンドからこれからの社会の有り様、若者の生き方の提言まで、内容の濃い話をしていただきました。「生徒は親の世代とは全く違う人生を送る。変化する社会に対応すべく、先行き不透明な未来を生き抜くために、私たちは一生涯継続しなければならぬ」という言葉が印象的でした。倉部先生はこの講演会のことをTwitterにも上げてくださり、生徒の中にはこれを機にフォローを始めた者もいるようです。



④附属中サイエンスキャンプ（9/29 帝京大学理工学部）

附属中の全学年の生徒が参加して、大学で講義や実験に参加してきました。

1年 ○「哲学カフェ」を体験してみよう

○手作りトランペットで学ぶ金管楽器の物理学

2年 ○エッグサイエンス

○マイナス196℃の世界

○オリジナルカードゲームでサイエンスに親しもう+ダジックアース

3年 ○紙飛行機と飛行船

○目に見えない放射線を見てみよう



⑤附属中イングリッシュキャンプ（11/1～11/3 なす高原自然の家）

英語によるコミュニケーション能力と論理的思考力、英語学習への意欲向上のため、2年生が英語漬けの3日間を過ごし、最終日にはその成果をプレゼンテーションの形で

披露しました。

⑥進路室ホームページ（HP）の開設

「何を今さら？」とお感じになる同窓生の方もいらっしゃると思いますが、実は昨年度までありませんでした。従って、高校での進路行事の報告や記録を一元的に行ったり振り返ったりすることができませんでした。附属中については、附属中のHP管理者が「中学日誌」のページに記事をアップしています。今年度から高校の進路行事や受験生の日常の様子などを「進路室より」というページにアップしていますので、お時間のあるときにご覧になっていただき、ご意見等お寄せいただければ幸いです（本校トップページの上方のメニューの最後にあります）。

ターゲットイヤーは2030年

みなさんは「SDGs」と「Education 2030」という2つの言葉を見たり聞いたりしたことはおありでしょうか。「SDGs」については、企業活動でも意識され始め、東京オリンピックの準備でも話題になっているので1度は見聞きされたことがあるのではないかと推察いたします。しかし、ある学年保護者会で知っているかどうか全体に質問したら、知っていたのは数名でショックを受けました。「Education 2030」はあまり一般メディアには流れてきませんし、教員でも知らない人の方が多いかと思えます。私も今年度の夏休みにあるワークショップに参加して初めて知りました。

まずSDGsですが、これはSustainable Development Goalsの略で持続可能な開発目標と訳されています。2015年9月の国連サミットで採択され、加盟国193か国が2016年から2030年までの間に達成を掲げた目標です。17の国際目標、その下に169のターゲットと232の指標が決められています。さらに詳しく知りたい方は、外務省HPや国際連合広報センターのHP等をご覧になるとよろしいかと思えます。これだけグローバルな関心事なので、大学入試でも徐々に出題され始めています。昨秋行われた東北大学工学部AO入試二期の英語の問題で、国連が発表した文章が採り上げられました。また、直接的ではありませんが、高崎経済大学地域政策学部の推薦入試では、課題文を読んだ上で「貧困問題に対して、どうすれば持続的な支援や対策ができるか。本文の内容を踏まえ、2種類の貧困を説明した上であなたの考えを600字で述べなさい。」という問題が出題されました。「持続的支援や対策」の文言にSDGsのコンセプトが見え隠れしている感があります。

もう1つのEducation 2030ですが、これはOECD（経済協力開発機構）が2015年に立ち上げたプロジェクトで、これからの時代の教育をどのようにすべきか提唱しています。キーワードは「コンピテンシー（Competency）」、「資質・能力」と読みかえられています。これまでは知識をどれだけ知っているか、が評価基準の主軸でしたが、持っている知識の量だったら人工知能（AI）には到底かないません。これからは、その知識をどのように活用するか、また学習によって何ができるようになるかが問われる時代です。日本もこのプロジェクトに参加しており、文部科学省とOECDが政策対

話を何度か行っております。その内容はインターネットで検索すれば知ることができ
ます。このプロジェクトを踏まえた上で高等学校の新学習指導要領はつくられたもの
と考えられます。この新学習指導要領はこの4月に入学する中学1年生が高校に入学
してきたときから適用になります。

● 求められるパラダイムシフト

現代社会は加速度的変化をしています。高校1学年で実施した講演会では、講師が
「今日の常識は明日の非常識」とまで言っていました。それ位変化が激しいということ
です。私ども進路担当の立場で言えば、生徒の意識や大学の体制も変わってきています。
一昔前まではそれほど合格のハードルが高くなかった大学も、今は非常に入りにくく
なっております。また、多くの大学が学生のサポート（学習面、奨学金等の経済面）を
充実させてきました。高校生の中には、日本の大学へ進学せずに直接海外の大学へ行く
者も出てきています。私たちは従来の価値観で語るのではなく、日本や世界の潮流を知
り、持っている情報を日々アップデートして、若者たちと付き合っていく必要があると
思います。社会の最前線で活躍される同窓生の皆様には、後輩たちへのリアルな情報を
是非お寄せいただきたく存じます。今後も本校に対する一層のご支援の程、よろしくお
願い申し上げます。